b

い。二千六百六十六年続く国の形を…。

堅実な道標であることを強く訴え、男系.男子による皇位継承を絶やしてはならな

のに、何故か安易な改正案だけが一人歩きをしている。

本人の多くが心の豊かさへの道を模索している今こそ、

民族の伝統護持がその最





第百七拾五号

遷宮で 結ぶ人の輪 第六十二回神宮式年遷

伝統護持と心の豊かさ

物質的には恵まれながらも精神的に満たされない現代人の心の荒廃・心の闇が浮かん らに過熱するばかりである。国民の多くが女性天皇・女系天皇の違いを理解してい ができるよう心掛けなければならない。 ると、心の豊かさを求めている人が多いということが分かる。 二十四パーセント、 な時間や人間関係を多少犠牲にしても経済的に豊かな生活を送りたいと思う人は、 伐とした事件が起こるのは何故か。 連のライブドア問題にも拘わらず順調に推移し、 庭の食卓を一年間まかなうことができる程の額と言われている。株価に関しては、 貿易黒字はバブル景気の頃と比べると三倍近くにまで達し、ある試算では日本の全家 でくる。我々は神職として、現代人の心のよりどころとなり、その闇を打ち消すこと 現代人が重視する豊かさは「心」が七十六パーセント、「物」が五パーセント。 に世界に誇れるものである。 秋篠宮妃紀子様の御懐妊という慶事が伝えられる中、 一月十五日の読売新聞に豊かさについてのアンケート結果が載った。 本経済は、ようやく不景気を脱し、 位の健康国で、問題となった個人医療費負担額も下位に属し、 そう思わない人は、計七十四パーセントであった。この結果を見 しかし、これだけ恵まれた環境にあって、 良い方向にむかっている。それを示すように 逆に注目を集めている。 皇室典範改正の議論はいたず 違った見方をすると、 こんなにも殺 健康・医療共 それによると また日本は

発 行 さいたま市大宮区高鼻町1-407 埼 玉 県 神 社 庁 電話048(643)3542番 室 アサヒ印刷㈱

ئ

の輪

編集委員 田 土支彦

どのやうに理解されてゐるのか、

その一

端を

神 の国学的

·ブルー タウトの 伊勢神宮論に触れて― 阪 本 是

丸

史学の三専攻と國學院大學日本文化研究所が 担当してゐる。 至るまで当該プログラムに係はる事務を主に COEプログラムに採択されて以 究発信の拠点形成」が文部科学省二十一世紀 共同で申請した「神道と日本文化の国学的研 大学院文学研究科の神道学・日本文学・日本 生は、 去る平成 十四年十月、 来、 國學院 、今日に

ことは不可能である。 神宮に係はるブルーノ・タウトの論を素材に つもりなので、 本文化の国学的研究発信の拠点形成」に係は 大學二十一世紀COEプログラム「神道と日 れる現代における「国学的展望」を提示する しでも公にすることに努力すべきであつた た個性的な日本文化、 象とする「日本文化の象徴としての神道 究」とは何か、ましてやそれから導き出 「国学的研究」について多少は考へてきた 「国学的研究」に没頭して、その成果を少 本来ならば、 遺憾ながら今の小生には肝心の「国学的 - 日本文化の象徴としての神道に根差 そのまた「象徴」ともいへる伊勢 本プログラムが調査・究明の 「神道と日本文化」に しかしながら、 日本人的世界観 國學院 つい が 7

間見ることにする。

国家神道の現在―』(青土社刊)の著者であり、 が、平成十六年に刊行された『国家と祭祀― 縛―伊勢神宮の現在」なる論考を著した子安 その中に収録されてゐる れに対して異論を唱へる人もゐる。 神宮であることはいふまでもない。だが、こ の「神道と日本文化」を代表するのが伊勢の 本文化の国学的研究」と喝破してゐるが、 信の拠点形成」の拠点リー プログラム「神道と日本文化の国学的研究発 宣邦氏である。 しての神道に根差した個性的な日本文化 本人的世界観」を究明する事が、 大學教授・小林達雄氏は「日本文化の象徴と 國學院大學の文部科学省二十一世紀COE 「再帰する始原の呪 ダーである國學院 「神道と日 その代表 そ Н

よつてもたらされたものであり、 古型を求めようとする復元的志向の言説 和前期における 本文化の象徴・ たいのは、(1)大方の人々が抱いてゐる「日 言説」 子安氏の該論考における伊勢神宮をめぐる 建造物)」 は多岐にわたつてゐるが、 日本美の極致としての伊勢神 「伊勢神宮の純粋形としての といふ観念は、 たかだか昭 それは同時 氏が いひ

> 戦後、一宗教法人となつたにも係はらずその 神宮は国家的アイデンティティとしての「日 とされたのであり、 以降の式年遷宮は「日本的なものの再生の場 もの」を求める「言説」によるものでもあつ 特権を有する伊勢神宮は歴代の首相をも呪 本的なもの」を絶えず再生できる特権を持ち、 し続けてゐる、 「日本的なもの・天皇的なも であるが故に、(2)昭和四年及びそれ といふことである。 そのことによつて伊勢の *の* 皇 国的

造物)」 すの 氏は、 発見したとされる世界的な建築家・ブルー 求める「言説」 的なもの・天皇的なもの・皇国的なも たらされたものであり、 象徴・日本美の極致としての伊勢神宮 となるのである」と述べてゐる。要するに、 宮的なもの』のたえざる甦りとしての式年遷 もの』であり、『皇国的なもの』であった。『神 同時に『日本的なもの』であり、 的志向が成立する昭和前期の言説にお いふのである。 めようとする復元的志向の言説」によつても おける 宮は、それゆえ『日本的なもの』の再生の場 て求められる純粋形としての古型とは、 クウト 子安氏は「もっとも『神宮的なもの』 が、 大方の人々が抱いてゐる「日本文化 0 といふ観念は、 「伊勢神宮の純粋形としての古型を求 伊勢神宮の比類なき「日本的美」を 一 日 本美の再発見』 その氏の によるものでもあつた」、 たかだか昭和前期に それは同時に「日本 (岩波新書) の中核をな 『天皇的 いては (の建

めぐる「昭和前期の言説」

であつた。子安氏はいふ、

「伊勢神宮とはまに関する一言説」

たかつたのは、「ここに在るところのものは、 勢神宮は、 郭とをギリシャの透明清澄な大気に受け、伊 れたのである。パルテノンは、その釣合と輪 屋根とを素材にして、 では大理石を用い、また日本では木材と萱葺 ンにおけるとまったく同様である。ギリシャ 真性の建築であって、たんなる工学技師の手 ある。」、と。 ることで見出される日本の始原的な固有性で なものとは、 なものといわしめるものは何か。 はいう。 勢神宮においてその極致に達した』とタウト さしくタウトにとって『日本的』なものの原 てゐない。 にもとめたのである。 なる建造物ではない。このことはパルテノ !度に『装飾的』なものを建築上の他者とす 「光の将軍的建築に彼が見る『後世的』な、 では彼に伊勢神宮について『日本的 これを日本の湿気と雨との多い風 タウトが伊勢神宮について語り だが、タウトはそんなことは述 『中国的』なものを、 『原始日本の文化は、伊 究極的な形が創造せら こといふ、 あるいは 『日本的 至極単純

Ξ

なことである

「日本的」といひたかつたのではなく、「伊勢世的」なものを「他者」として比較した上でに、タウトは伊勢神宮を「中国的」なものや「後このタウトの言から容易に理解されるやう

°,

単純にイセの神宮はギリシャの

ルテノ

出た実感であつたらう。

すなはち、 史上ばかりでなく、 ション』 著書と『始原のもどき―ジャパネスキゼー 的なもの」。新潮社、 子安氏自身が「磯崎新 とは、私が改めていふほどのことでもなく、 れが結果的には最大限の称揚であることを当 的」なものとしての伊勢の神宮を見出 たのではなく、伊勢神宮をギリシャのパルテ 日光の将軍的建築に彼が見る「後世的」 た。」と謝意を表する現代日本を代表する建 勢神宮を考える視点について貴重な示唆をえ 人が認識してゐただけのことである。 ノンとの比較においてそれに匹敵する「日本 ること」によつて「日本的」なものを見出し 過度に タウトは、「「中国的」なものを、 「装飾的」なものを建築上の他者とす 「崎新氏も指摘してゐるところである。 (鹿島出版会、 「タウトは複雑なことはいってな 現代思想の問題として伊 11001110 『建築における「日本 一九九六) 磯崎のこの から建築 ある そのこ į な、 そ は

> らない。 的国学研究」を構築するための一階梯に他な めた広く世界大の視点から見つめ直す「今日 文化」を、 文」から「近現代」にかけての「神道と日本 奉賛する斯界の課題のみならず、 らない。それは、 研究課題の一つとして問題とされなければな のか、を問ふ。 への没入へと評価基準を傾斜させてい」つた 込みにたいして、 ている点において一貫している。」、 の記述がパルテノンとの比較においてなされ がイセの神宮建築を評価するときそのすべて ンに比肩できるといっただけだ。」、 る「神道と日本文化の国学的研究」の重要な ト的な西欧的な『建築』 磯崎氏は、 東アジアはもちろん、 この問ひこそが、現代におけ 何故に近現代の日本が 西行的な日本固有の 来る第六十二回式年遷宮を の評価基準への送り 日本の 欧米をも含 『自然』 タ タウ クト

確 れも 客観的に実証する営みこそが重要であり、 であり、 重々承知してゐるが、 十分にその課題に応へられなかつたことは 国における国学的展望」であつた。本稿が、 ることを、 信をもつていひたい 小生が編集部から与へられた課題は 「国学的研究」 その象徴のまた象徴が伊勢神宮であ 観念論からだけではなく、 の 一 神道が日本文化の象徴 つであることだけ 学問

國學院大學教授

できてよかった。― (九月二十日)

のこだま

愛知万博への企画出展始末記

はじめに

阑 oxdot

稔

てしまったら、とても寂しい気がする。 すぎているような気がする。 このコンセプトでは?と思った。 あくまでも自然の中の、ヒト、を我々が忘れ メッカ愛知県だからか?でも、 もそこに頼っている以上否定はできないが、 ·かと思っていた矢先、ここを見つけること 今回の万博が本当にねらいたかったのは 万博は、 どうも人工物ばかりが強調され モノづくりの それが故に、 文明の進歩 帰ろ 折よく昨年が

ょ

付けの る 年の森」 閉幕間近に、私ども社叢学会が出展する「千 この文章は、 ノートに書き記してくれた感想であ に来場した神奈川県の男性が、備え 昨年に開催された愛知万博の

その内の一つで、 博に心から賛同して果敢に参加した我が社叢 叡智」を人類に問いかける画期的な愛・地球 実現することができたが、「千年の森」 をかけて三種類五項目の企画参加を首尾よく 森を造成して、 丘陵の一角に二千平方メートルほどの鎮守 「森に生きる日本文化」を主題に、 半年にわたる企画の検討のあと二年 長久手会場の東ゲートに近 日本古来の聖地を再現した 自 一然の は、

> ンポジウム 和聖徳記念財団とが共催した伊勢での国際シ の第六十一回式年遷宮の際に、 のは、実は前回の神宮ご遷宮―去る平成 したもの。 のである。 「千年の森に集う」の名称を活か それを「千年の森」と名づけた 神社本庁と昭 五年

あり、 博会場に実況中継して奉祝イベントを開催 ル 曽谷のヒノキ美林で斎行されるのを何とか万 する年で、しかも万博開催たけなわの六月三 就するのを目指して本格的な奉賛事業が発足 日には冒頭の最重儀である「御杣始祭 いよ第六十二回のご遷宮を平成二十五年に成 するというのも、万博参加の大きな理由で 今回の遷宮事業を広く国民各層にアピー もう一つの企画でもあった。 「遷宮元年」に当たり、い が木

くの感想文のいくつかを紹介しながら、 正面から応えてくれた、 の成果を記してみたい のひとつだが、本稿では他にも残された数多 我々が万博に積極参加した根本の問いかけに まず冒頭に紹介した感想文は、 まことに嬉しい評価 まさしく 出展

「千年の森」をめぐって

年の森」とあり立ち寄る。自然の中では、 -各パビリオンを回り、帰り際ふとみると「千 \exists

います。

ここはとても涼しく、

とてもいやさ

市からの男性 らいたいと思います。 きました。この館をもっと皆さんに知っ 本の神秘、 静けさとともに疲れがとれ (七月十四 日、 豊田 ても 息つ

だけは にいたい! とっても快適で最高でした。 聖な感じもします。―(九月二十日、若い女性) 自然がいっぱいで、 間が喜んだという程度でしかなかった。 日に百人ほどが多く、 は全期間を通して二万人台の総数ばかりで、 者がありながら、 いう者を含めて延べ二、二〇〇万人もの来場 に多くの感想文に残された。 であったから、このような感想が当然のよう 付かないのが半年の期間を通じての有りさま け抜けるばかりで、 宣伝の企業パビリオンへ先を争って広場を駆 バスで到着する大量の来場者たちは派手な前 り。一見何の変哲もない森林であっただけに、 場からの参道には目立たぬ案内板が立つばか イコー。 千年の森」は、 今日はとても暑いので・・でもでもココは -友達に教えられて、ここへ来てみました。 東ゲートを入った左手の丘 (前略) 超ビックリー穴場スポット?とにかくサ 「千年の森に千人が来た」と管理の 僕の眼下では人が会場にむかって (七月十八日、 でも全然、 まさしく樹叢に覆われて広 全く地味な「千年の森」に ほとんどその存在すら気 すごく落ちつきます。 九月二十五日の最終日 人が居ないのには 女子中学生二人) いつまでもココ 何十回も来たと 陵に 造 成した

知してくれ

若い男性) は残して下さい。―(九月十五日、東大阪、入りました。万博が終わっても「千年の森」れました。おっちゃんの話もおもしろく気にれました。おっちゃんの話もおもしろく気に

こ 「天空・鎮守の株」まかの出展 はこそ、その狙いを満たすものであった。 としたのであったから、こうした来場者の感神聖な気配が人に安らぎを与えることを眼目ず、要は、鎮守の森が静かで清らかであり、じみでなく来場者の多少は当初から問題にせといった具合である。しかし、これは負け惜といった具合である。しかし、これは負け惜

二 「天空・鎮守の森」ほかの出展

男性

ない。万博協会から要請されて二十五メート「天空・鎮守の森」もそうであったかも知れに立つ二本のシンボル塔の頂上に出展したに立つ二本のシンボル塔の頂上に出展したに立つ二本のシンボル塔の頂上に対ローバルとマンモスのミイラ像を展示したグローバルをする。

の森を「鎮守のこの でも目にし でも目にし でもりにし でもりにし でもりにし でもりにし でもりにし でもりにし でもりにし でもりにし でもりにし でもりにし

> 伝えられる筈である。 にえられる筈である。 に、愛・地球博のシンな「千年の森」と同様に、愛・地球博のシンが、これも今後、万博開催記念として存続すが、これも今後、万博開催記念として存続すたぶん一般には気付かなかったにちがいないた来場者が、果たしてどれほどであったか。

ばいけないと感じました。―(九月二十日、川、海)私達人間が大事に守ってあげなけれーみずから抵抗する事のできない自然は(木、のほかに三項目の企画で万博に参加した。我が社叢学会は、以上二つの常設屋外展示

ち二千人ほどが集結 父から屋台囃子奉奏団それぞれの奉祝参加を 乗せることができた。 をNHKの協力を得て愛・地球広場での奉祝 を掘り起こすべく、六月三日の「御杣始祭 が自然の生命を畏敬して築いてきた伝統文化 表明することができた。 木曽のご神木奉曳団、 イベントに仕立てて、 プ、さいたま市大宮の神輿奉舁団、 この述懐はもとよりのこと、 中部 関東の各地から神社関係者た して、 会場イベントには、 テレビの全国放送にも 伊勢の遷宮芸能グルー 遷宮事業の意義を 私どもは先人 それに秩 裏

ルの塔の上

おわりに

う紛れもない事実である。 あれもない事実である。 を答言して物心両面から応援して下さっまさることながら、何よりもこの企画実行のは、何とか首尾よく成し終えたという安堵感は、何とか首尾よく成し終えたという安堵感は、何とかでである。

の協賛、 の意を表したい 今回の企画実現であっ 県神道青年会ほかの各種ボランティア団体な は個人有志、 皇學館大學、 国際交流基金、 神社庁、有力神社など全国の神社界をはじめ、 神宮司廳、 枚挙しえない多数のご助力あってこその それに会場管理に尽力を賜った愛知 社叢学会の役員や一 神社本庁はもとより各都道府県 立正佼成会などの諸団体、 神道国際学会、 ここに記して感謝 國學院大學 般会員など 更に

含茶香香) (庁長・社叢学会「愛知万博」出展実行委員 と苦心によって、

かつての葛編みを再現

ことにより神宮から依頼を受け、

持前の技術

滋賀県水口の葛編みの技術伝承者が途絶えた

筥」三合(荒祭宮まかこリー) 東の「白葛筥」一合(皇大神宮御料)、「 での技術者として第六十回式年遷宮から、

神宝の

埼玉県の神宮御装束神 :宝奉製者ならびに奉製品の紹 介

葛編み

髙 橋 寛

司



・いせ御夫妻

神立三之助 があります。 御装束神宝 余点に及ぶ れる千五百 まま調進さ て、古式の

る幣物とし 下が奉られ 遷宮に際 天皇陛 ました。 また、

られ、三度目となる平成二十五年の第六十二 回式年遷宮のための奉製をこのたび終えられ (豊受大神宮御料) 白葛靱」二腰 (荒祭宮御料)、 の四種九点の奉製に携わ 「胡袋い 三腰

う。

度の式年

一十年に

神宝を紹介します。 るとともに、奉製された葛編みによる御装束 る九種類の白葛筥なども奉製されています。 この技術が認められて、 本誌ではこれまでのお二人の御功績を称え 昭和五十二年からは、宮内庁からも 宮中の祭祀に使われ

葛 [編みによる御装束神宝 御装束「白葛筥」(皇大神宮御料

神立三之助(大正十一年七月生)・いせ(大紫や、ちの奉製に長く携わられてきた川越市在住の

神宮より遠く離れた本県においても、これ

正

|十三年二月生)御夫妻がいらっしゃいます。

お二人は先代の久治氏

(故人)と共に、



らく伝統工芸の「水口細工」の名で知られた籍などの竹籐工芸の製造販売を営む傍ら、永

る。 う。 もので、おそらく小物入れとしての料であろ 葛の茎を白く晒し、これを編んで箱にした 小物を入れるのに用いられたものであろ 御装束 「荒筥」 (荒祭宮ほか二別宮御料)

荒筥は皮のまま晒した葛を編んだ箱であ

御神宝 「白葛靱」 (荒祭宮御料

あり、 の形が甚だしく異る。『儀式帳』には胡籙と に平胡籙の形式に属する 靱と名づけられてはいるが、 『延喜式』 には記載はない 錦靫等とはそ が、 明らか

靱といわれる。 背と櫃 白く晒した葛の茎を編んで作ったから白葛 (鏃を指す部分) には鹿角の緒通を

矢は拭箆、烏羽、铆葉形族で、為の緒)と腰緒がついている。といるというないでいる。 矢搦緒に通して櫃に盛ってある。 柳葉形鏃で、 (矢をたばねる 四〇筋を二



(豊受大神宮御

胡籙と壺胡籙の二形式があって、御料は、そ 2黒漆塗に朽木形の銀蒔絵を施し、矢羽は葛編細工の素地に赤漆を塗ったもので、 平胡籙である。この形式は兵仗には用いら **!籙は靱に次いで発生している。これに平** くれているのである。 いた。 矢



装束神宝が、明治以降の科学文明の趨勢のまとも貴顕の生活に関連した実用具」であった で、 三之助氏の父久治氏に葛編みの依頼の経緯の第六十回式年遷宮に際して、神宮より神立 を例に取り上げて次のように記している。 材が犠牲になろうとしている現実を、 なくなり、 束神宝調製偶感 としてその任に当たられた村瀬美樹氏は、『装束神宝調製の中心である神宮式年造営庁技監 えには社会生活の機能と無縁とならざるを得 端を知るものとして、 「もともと調進当初の宮廷生活、 第一〇三号・ 調製の伝統技術・これに要した資 昭和五十年二月発行) 伝統技術と科学文明』(『瑞 第六十回式年遷宮装 葛編み 少なく の中

宝の「白葛靱」(荒祭宮で料)、「荒筥」(荒祭宮にご料)、「荒筥」(荒祭宮に あげられる。 大神宮ご料) 、四種九点の葛編製品のことが (荒祭宮ご料)、「胡籙」(農(荒祭宮ほか二別宮ご料)、 「白葛筥」 (皇大神宮 (豊受 神

白羽の二枚矧である。

矢羽は鷲

器にも用いられるほどになっていた。 の一つで、近世では水口細工として、江州水すでに奈良期から実用化されていた生活用具 藩の特産物となり、 葛編製品は正倉院の遺品にもあるとおり、 江戸期の大嘗ったいじょう

籠、小物箱質をmere 、 していた好条件にもよるが、戦前までは花器、 していた好条件にもよるが、戦前までは花器、 生産が水口で盛んになったのは、 今の滋賀

> の域にまで達せしめていたのである。 調に継承されてきたからでその成果は勢い、 殊処理法や、 素朴な土俗民芸に過ぎなかったものを美術品 編加工の永年にわたる技法が順

の水口 るが、 るなどの、根、と、勘、 蔓を特殊な操作で晒し、 その協力によって葛材を使用、 らした結果を端的に示したものといえよう。 になってしまった。 後継者も絶え、 れてきたからで、 学製品の今日的素材の出現によって疎んじら た。というのも、 が化学製品に取って変わり、 おりの葛編加工の復元をみたものの、 工の伝統も大きく後退するの余儀なきに至っ 当 ところが、ご多分にもれず戦後は素材 |度の調進では、 (以下略 畢むっきょう 細工の精 これは化学製品の量産化がもた 土地の古老の記憶に残るだけ 巧さとは比ぶべくもなかっ 今ではついに、 土用の最中に刈り採った葛 やむを得ないことではあ 篤志の技術者に依存し、 による煩雑さが、 表皮を細く削ぎ揃え いわゆる水口 一応、 葛編加工 かつて 品名ど

神社庁 学芸員

靖國神社献穀徒歩参拝

高橋信和

ました。 にかわるや渡りはじめるが、 これほど辛いものか。 所に着くと膝は笑い、 輩の思いがけない出迎えに励まされて、 三十一キロ先の靖國神社を目指して歩き始め きな交差点の赤信号で立ち止まり、信号が青 の繁栄を築いてくださった先人達にこころか でした。重い腰を上げ歩き始めると、 れ御神田で収穫された米を奉持して、 に進んで行きました。 ¹感謝の気持ちが湧き上がって来ました。大 容易に行ける距離なのに、 した後参加者は四つの班に分れてそれぞ 一十五日の午後十時に埼玉県護國神社に参 一度下ろした腰には根が生えたかのよう 今回で三度目の開催となりました。 はじめての休憩所で、鈴木・土屋両先 氷川様の参道を通り二時間半程歩い 脹脛はパンパンに張っ しかし、二度目の休憩 ありがたい。」と今日 渡り終える頃に 徒歩で行くのは 「車な 順調

> した。 九段の坂を上ると、大鳥居が目に入ってきま は赤に変わる。鉛の様に重い足を持ち上げて

にとを誓いました。 年前六時半、八時間歩き続け、参加者全員 がって御神門をくぐることができました。持 がって御神門をくぐることができました。持 を風化させることなく後世に受け継いでいく を風化させることなく後世に受け継いでいく を風化させることなく後世に受け継いでいく を風化させることなく後世に受け継いでいく

(埼玉県神道青年会副会長

事として慰霊と感謝の誠を捧げるべく始めら

そもそもこの行事は、

終戦五十年の慰霊行

敬と感謝の心の復興」をテーマのもとに継承

県神道青年会創立五十周年のおり、

一尊



安 昼

神棚奉斎啓蒙パンフレット配布!

活動

報告

和



十一月二十六日、今回で五回目日、今回で五回目日、今回で五回目のと同様に、薗田田と同様に、薗田神道婦人会・神道婦人会・神道

となった。

神棚奉斎と共に式年遷宮にも留意した。は神社本庁の冊子類を用いた。幟と冊子類は、成し、実際に神棚・神具を展示した。配布物け、視覚にも訴えようと、新たに、幟、を作ハンドスピーカーで道行く人々に呼びか

お日は好天に恵まれ、なるべく多くの人々が集まる日を選択しようと考え、土曜日といが集まる日を選択しようと考え、土曜日といがままる日を選択しようと考え、土曜日といがないがあり、人出はかなりあった。

活動の参考としたい。 (神社実務部長)一で、且つは土地柄を体験しつつ、今後の配布・神職として日常接し得ない環境ということ

|祖国崩壊を阻止しよう| 万家庭奉斎の意義

1

止しよう― 神社本庁顧問 躙

勝之進

課題を提唱しましたのは、 筆を執りましたので、何とぞ微衷お汲みとりの この際何のための神宮大麻頒布か、といふ原点 意と感謝を捧げるものであります。ところで、 上、ぜひお目通し下さるやうお願ひ致します。 に立ち返ってみることの緊急性を、御関係各位 崇敬者総代の末席に列なる一人として、 苦心を払ひ努力を重ねてをられることと、神宮 にぜひお考へいただきたいとの切なる思ひから **【のことでした。これは「一千万体増頒布運動」** 実は「神宮大麻一千万家庭奉斎運動」といふ 各神社庁や各神職におかれては、ここ数年 減少傾向に何とか歯止めをと、それぞれに 年も神宮大麻頒布の季節 私が神社本庁総長時 がせまってきまし 、深く敬

では、大力がフレーズとしては簡潔なことは判ってゐたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてゐたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてゐたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてあたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてあたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてあたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてあたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてあたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてあたのですが一事実、その当時謳ひ文句としてあたがフレーズとしては簡潔なことは判っのは私だけの思ひすごしでせうか。

ちてゐるからです。
ちてゐるからです。
なぜ「家庭」にこだはるのか。それは、祖国なぜ「家庭」にこだはるのか。それは、祖国

これを救済するに、まづは「家庭には必ず神

のです。の運動を担へるのは神職と総代さんしかゐないの運動を担へるのは神職と総代さんしかゐない棚を」の運動を展開することが先決であり、そ

家庭の神棚といふ、この簡単な施設が家庭生家庭の神棚といふ、この簡単な施設が家庭生活において、また子女の教育において、どのやうな機能を果すかについて、専門家の各位にが、私が考へるところを率直に披瀝しますと、が、私が考へるところを率直に披瀝しますと、が、私が考へるところを率直に披瀝しますと、が、私が考へるところを率直に披瀝しますと、が、私が考へるところを率直に披瀝しますと、のが、形象の上で常時、確認可能になるといふものが、形象の上で常時、確認可能になるといふもにおいて、どのや活において、とのや活において、とのや活において、とのを関する。

か。

が高、国旗・国歌法ができても国家の権威を
が高、国旗・国歌法ができても国家の権威を
がありま
が、国旗・国歌法ができても国家の権威を
がありま
が、国旗・国歌法ができても国家の権威を

> みながら考へてみたところです。 神棚への対応の仕方をやさしく説いた入門篇を をとも、まづは神さまに、といふ習慣をつける なども、まづは神さまに、といふ習慣をつける なども、まづは神さまに、といふ習慣をつける なども、まづは神さまに、といふ習慣をつける なども、まづは神さまに、といふ習慣をつける なども、まづは神さまに、といふ習慣をの なども、まづは神さまに、といい。 なども、まづは神さまに、といい。 なども、まづは神さまに、といい。 なども、まづは神さまに、といいる習慣を なども、まづは神さまに、といいる習慣を なども、まづは神さまに、といいる習慣を なども、までは神でせう。例へば、子どもの誇 になっては、とわが家の日常の一端を顧 なども、までは神でせう。例へば、子どもの誇 をいくつか記したビラを無料神棚につけて なども、までは神でせう。例へば、子どもの誇 をいくのか記したビラを無料神棚につけて

神宮司庁弘報誌の『瑞垣』の古いところには、 を見えてゐますので、それぞれの地方の風習なども織りまぜて、お供へや拝み方などをお書き になると、必ずや核家族の若い親たちの心を動 になると、必ずや核家族の若い親たちの心を動 になると、必ずや核家族の若い親たちの心を動

子ども達こそ明日の日本を担ってくれる宝でるやう祈ってやみません。

ことを祈って擱筆いたします。

ことを祈って擱筆いたします。

ことを祈って擱筆いたします。

ことを祈って擱筆いたします。

ことを祈って擱筆いたします。

ことを祈って擱筆いたします。

ことを祈って擱筆いたします。

平成十一年九月十三日発行より

皇室典範改正 間 題に関する活動 展 開

る神社本庁の基本見解」を発表した。 正法案を国会に提出する準備に入ったことに が提出した報告書を受け、 内容を検討し、「皇室典範改正問題に関す .諮問機関「皇室典範に関する有識者会議 平成十七年十一月二十四日に小泉首相 十二月二日、 神社本庁は先の報告書 政府が皇室典範改 の私

名を動員した。 速な皇室典範改正を阻止する決起集会」を開 成十八年一月十九日、憲政記念館におい おける慎重審議を求め、 |継承の伝統護持のため、 この基本見解に基づき、 全国から約八百名の神社関係者が参加 中でも本県は中山高嶺本部長以下約百 国会開会日前日の平 神道政治連盟は皇 改正法案の国会に ,て「拙

した。集会後、 連盟会長が要望書を武部自民党幹事長に提出 関する要望書」を採択し、 て陳情・署名活動を展開した。 |慎重な審議を求める「皇室典範改正問題に 決起集会では、小泉純一郎自民党総裁あて 各地元選出の衆・参議員事務所を訪問 参加者は衆・参議員会館を回 宮崎義敬神道政治

時局対策研修会」を二月十三日に氷川神社「呉 本部・県神社庁・県総代会共催による 竹荘」において開催した。 般にも広げるために、神道政治連盟埼玉県 本県では、この改正阻止に向けての

急な企画にも拘らず百四十名もの参加者が

づき薗田庁長や来賓の有村治子参議院議員ほ 詰めかけ、 か県議会議員による挨拶や提言があった。 中山本部長による主催者挨拶につ

講演 であるとした。皇位継承においても厳然と続 真の改革とは伝統を守りながら創造すること 以降の近代化を進める上での大改革であり、 国難に直面していた明治維新の王政復古は、 (二月十一日) 日本帝国憲法発布と皇室典範勅定が紀元節 目指す「伝統と創造の会」を紹介しつつ、 切不要であるとの見解を明確にされた。 てきた男系維持の伝統を堅持すること、 自由民主党新人議員有志による真の保守を 研修会は、稲田朋美衆議院議員による公開 「皇室典範改定問題について」がおこな 氏は、 予てより皇室典範改正の議論は の同日であった話に始まり、 大 Н

締めくくった。 美しいと感じてきたと 本人はこれを圧倒的に

けて議論を進め、 後国民の間で時間をか 拙速な改定案上程の断 声明文を決議した。 強力に推進することの 守るための国民運動を ある皇位継承の伝統を 固反対と、これらは今 研修会の最後には、 歴史

•

神宮大麻

目

的

家庭開

対策

新 拓

目的とするものである。 とする前年度の頒布数を必ず確保することを 斎家庭開拓対策事業」を展開 並びに埼玉県神社総代会では、 況である。 の減体傾向に歯止めをかけることが適わぬ状 た。 部及び関係団体を通じ様々な対策を講じてき 教化モデル支部 庁本宗奉賛委員会を中心に協議・検討を重ね、 べき事態である。 累計でも約二万千五百体を超える誠に憂慮す いて前年比約七千体も減体しており、 に引続き著しく減体傾向にあり、 本県内に於ける神宮大麻の頒布数は、 然しながら有効な手立てもなく、 かかる厳しい事態に埼玉県神社庁 (北足立支部) この問題に対し、 緊急に「新奉 をはじめ各支 現時点に於 先般来当 二カ年 が目標

期

平

成十七 年十二月二十二日 -成十八年八月三十 Iから 日迄

ξ 内

代宛三体並びに各神職宛三 支部管内の全ての神職・総代が、)に一括して貴支部に送付する。 本事業展開のための神宮大麻を、 一体を基準 期間を通 各神社総

庁 務 ${\sf H}$ 誌 抄

有村治子参議院議員朝食会 前原参事出席 Hルポール麹町

4 比企支部 「お宮と親子の集い 滑川町・月輪神社

12

6 5 久邇邦昭本庁統理喜寿祝賀会 教養研修会打合せ 神立講師・髙橋学芸員 薗田庁長出席 東京プリンスH 於 川越市

12 13 都七県 (臨時) 神社庁長会 薗田庁長出席 大宮「清水園 本庁

12

12

正副庁長会・庁設立六十周年記念事業検討委員会

12

12

12 12 22 14 平成十八年 16 拉致被害者救出国民集会 神宮 (外宮) 月次祭奉仕 於 渡邊主事出向 日比谷公会堂

12 埼玉県宗教連盟新年懇親会 薗田・前原・宮澤出席

1 16 神政連県本部臨時役員会 於 大宮「清水園 副庁長会・庁新年互礼会 八十名参加 於

1 19 皇室典範改正を阻止する決起集会 本県百名参加 於 永田町[憲政記念館

1 30 別表社加列臨地調査 薗田・前原出席 前原参事出向 於 神宮司廳 高麗神社

2

6

神政連一都七県本部長・幹事長・事務局長会

2 7 正副庁長会・庁設立六十周年記念事業検討委員会 中山・曽根原・前原出席 庁役員会、 支部長懇話会 於 群馬·伊香保

都七県IT連絡会 山田・塩谷・髙橋出席 大宮・氷川神社

> 2 10 宗教法人研修会

故吉田満子宮司葬儀 髙橋学芸員出向 さいたま共済会館

緊急時局対策研修会

19 大里支部 「教養研修会」 大宮·氷川神社呉竹荘

2

2 21 ~22 一都七県神社庁連合会総会 薗田庁長以下 十八名出席 於 横浜ロイヤルパークH

2.22~23 神政連本部時局対策連絡会議

中山・高麗・山田出席

任免辞令

12 任 6 宮本 剛義 (本) 白鬚神社宮司他二社宮司 間

18 12 25 杉田 (本) 金佐奈神社宮司他五社宮 児玉

2 . 10 2 1 1 宮本 京子 **(M)** (本) **峯ヶ岡八幡神社権禰宜** 調神社禰宜 (北足立) (北足立)

2 20 2 . 15 諏訪 吉田 正臣 元則 (本) (新) (兼) 氷川女體神社禰宜 氷川神社宮司他一社宮司 大寄諏訪神社禰宜 (北足立) (北足立) (児 玉)

吉田 幸年 (11) 氷川女體神社禰官

本務替

12 20

 中山神社宮司 (北足立)

12 12 **免** · · · 20 20 吉田 杉浦 (本) (本) 氷川女體神社禰宜 (北足立

雅長

鷲宮神社権禰宜

(南埼玉

武野神社宮司 氷川神社宮司 栗原 (平成十八年一月十日 幸広 $\widehat{\pm}$ 一月十六日 享年八十三歳 享年九十二歳 (北足立) (北足立)

渡邊主事出席

じて、

地鎮祭その他諸祭斎行の際の頒布や、

. 13

2

一四〇名参加 浦和

薗田庁長・前原参事 於 熊谷·高城神社

> 実情に応じた事業を展開する。 居住する家庭への頒布や啓発など、

所やマンショシ・アパートなどの集合住宅に 認と一戸建て住宅のみならず会社その他事業 各神社の氏子区域内に於ける未頒布地域の確

各支部の

於 赤坂プリンスH

> 四 助成金 体につき百円

五 初穂料

します) 一体七百円 (明年一月に支部に一括請求致

※一般に有料頒布される場合は、八百円にて ※助成金 (本事業対策資金)と相殺します。

その他

頒布願います。

ず **須布されるよう督励下さい。** 今回送付の神宮大麻は、 本事業期間内に必

なきよう貴職の責任に於いて頒布願 返戻や明年(十八年度)の請求数に影響 います。 。 の

神 社 所 在地 記 載 確 認 の お 願 ()

る場合は、訂正が必要となりますので、 かに神社庁まで御連絡下さい。 に記載されている神社所在地に変更が生じてい 諸般の事情により、登記簿ならびに神社規則 すみや



埼玉の社 叢

入間市愛宕神社社叢ふるさとの森

文教・商業の中心部となっている。 脇往還)と国道四六三号(江戸秩父道) 愛宕神社が鎮座する界隈は、 「秩父道)が交わる要衝の地で、今も市の行政 かつては扇町屋と呼ばれ、国道一六号(日光 かっては扇町屋と呼ばれ、国道一六号(日光 (日光

間市豊岡三丁目七—三二

でである。 で有陣していた鎌倉公方足利基氏は、東国の南朝勢力の中 に布陣していた鎌倉公方足利基氏は、東国の南朝勢力の中 当社の元となったのは神明社であったが、正平十三年 興を従者十三人と共に「矢口の渡し」で謀殺し、首実験の後、当社の社前に葬む。 ために当社に新田大明神を勧請し、 た。これを義興の祟りとする風説が起き、正平十六年、基氏はこれを鎮める た。しかしその後、雷火による火災で辺り一帯が延焼したが当社で火が止まっ 扇の形に町を復興して「扇町屋」と名付 東国の南朝勢力の中心であった新田義ったが、正平十三年(一三五八)、当地

仰されるようになった。まさに当社の社叢が防火林の役目を果たして社殿を 屋の上を飛び回り、 護ったことが信仰に結びついたものといえよう。 の描かれた軍扇を神体として愛宕社を勧請して以来、当社は愛宕社として信 ることから、二度の大火を免れた当社に、 さらに嘉慶二年(一三八八)六月二四日、 その夜町は大火に見舞われた。この日は愛宕の祭日であ 神主が彼の義興所持の別雷命像 社地から鳶が多く飛び立ち扇

貴重な緑となっている。平成七年三月三十一日県の指定を受けた。 としては主に、 新田義興首塚の松」と従者十三名を祀った「十三塚の杉」が聳える。 当社の社叢(五六アール)は、スギやシラカシの大木があり、社前には今も、 スギ・マツ・ヒノキ・ケヤキ等から構成され、 市街地の中で